

2021年4月2日、No.1

郡山八幡神社の「焼酎」墨書は、どこに残された？

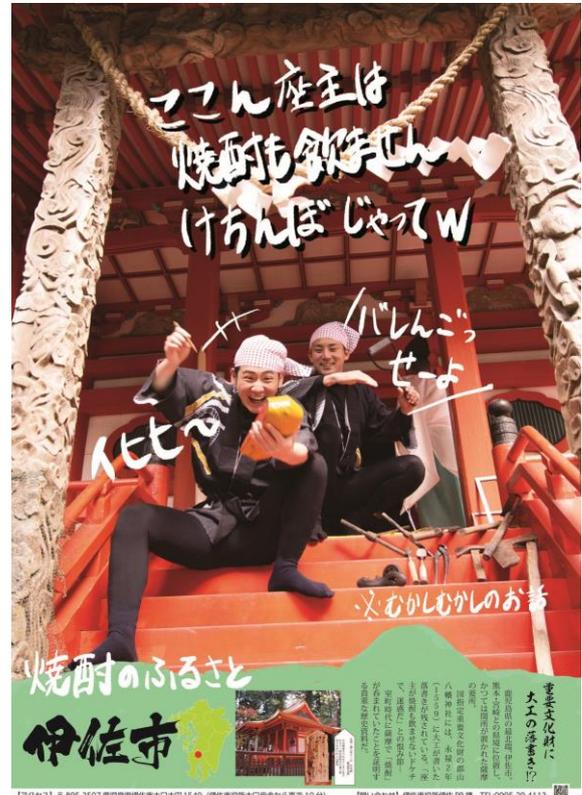
令和2年(2021)1月、伊佐 PR 課では焼酎発祥の地「郡山八幡神社」ポスターを作成しました。

郡山八幡神社には、「座主が焼酎も飲ませてくれない」と、室町時代(永禄2年・1559年)の大工が恨み節を書いた落書き(墨書)が残されています。この「焼酎」文字は、記録上日本最古とされており、450年以上昔から薩摩に焼酎文化が根付いていたことを証明する貴重な歴史資料になっています。

これにより、本市は「焼酎発祥の地」として広く PR しています。

では、この落書きが記載された木片は、神社のどこに残されていたのでしょうか。

その場所は、国の重要文化財にも指定されている本殿の裏手になります。(画像参照)



この部分は木鼻(きばな)と呼ばれる柱の装飾で、本来は1本の木材で作られているのですが、木鼻の上の部分を本体にかぶせて修理する際、かぶせる木片の裏側に落書きしています。

本殿修理に当たった当時の大工が書いた、非難と腹立たしい不満の気持ちを込めた落書き(墨書)が奇跡的にそのままの状態で見つかり、昭和29年~30年(1954~1955)の本殿改築・復元の工事に際して発見されるまで、誰にも知られることなくこの場所に残されていました。

結果的にこの落書きに登場する「焼酎」の文字は、現在のところ日本における文献で確認できる最古の「焼酎」文字とされています。

その資料的価値から、平成27年(2015)、この木片だけ特別に鹿児島県有形文化財に指定されました。現在、この木片は本来あった場所からは取り外され、大切に保管されています。

令和3年(2021)1月、政府は焼酎をはじめとする日本独特の酒文化を、ユネスコの無形文化遺産に令和6年(2024)に登録することを目指す方針を発表しました。

日本独特の酒文化の源流を知る、貴重な資料が伊佐市にはあります。

【参考資料】

黎明館 編『黎明館企画特別展 八幡神の遺宝 -南九州の八幡信仰-』図録、2016年9月

文責・問い合わせ先: 伊佐 PR 課交流ビジネス推進係 メールアドレス isapr@city.isa.lg.jp

郡山八幡神社 木片位置





木片を裏返した状態(実物)

